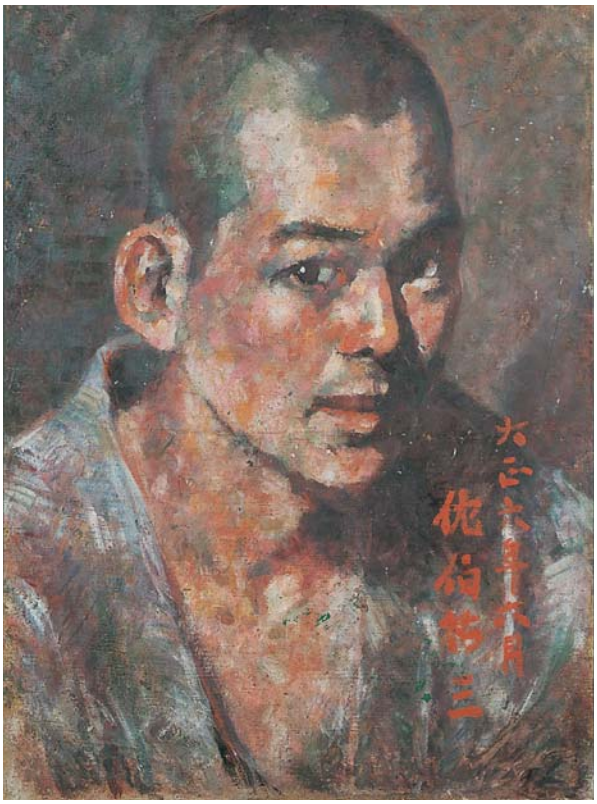
# 石川県立美術館だより

BIJUTSUKAN DAYORI

第331号　平成23年5月1日発行


## セルフ・ポートレイト展
### ―キャンバスの中の巨匠たち―



「自画像」佐伯祐三

## 百万石大名の装い ―甲冑・陣羽織―　前田育徳会尊經閣文庫分館

## 長谷川等伯とその周辺　第2展示室

## 顔 ～様々な表情～　第4展示室

- 五月前半の展覧会
- 平成22年度の新収蔵品
- 今年度の土曜講座について
- 所蔵品紹介

# 1F企画展示室

## 学芸員の眼

今回展示の木村荘八や佐伯祐三、藤田嗣治など六十点の自画像について思いを巡らすと、大正から昭和初期が、自画像という画家の作画衝動によってのみ生まれる造形にとって、とても大きな高揚期であったのだと感じます。

西洋からもたらされたガラス鏡という、極めて明瞭に世界を映し出すことが可能な鏡と油絵具を用い、明治期に自分をモデルに質感・量感の表現を学ぶことから始まった自画像が、大正期に入って自己を記録し、深化を問い、内省を吐露する場となって盛期を迎え、現代では自分を画中のモチーフの一つと定義し、描き出すようになったと、これら六十点の自画像を見て感ずるのです。

「自画像」＝「作品」、その端的な例が鴨居 玲の晩年の作品でしょう。今回展示した三点「勲章」「肖像」「一九八二年 私」は、いずれも自画像であり、かつ見られることを存分に意識した作品なのです。

# ―キャンバスの中の巨匠たち―

**平成23年4月24日（日）～6月12日（日）会期中無休**

財団法人日動美術財団の協力を得て、「セルフ・ポートレイト展―キャンバスの中の巨匠たち―」を開催いたします。

セルフ・ポートレイト（自画像）は画家や彫刻家が自己と語り合い、自分の顔や姿を描いたものです。美しく、優しく、高貴になど、他者を描く際の条件は一切なく、おもむくままに自己の深奥を探りえる自画像は、巨匠・名匠の心の内をたどる格好の作品といえましょう。

自画像はほとんどの作家が一度は手がけるテーマですが、それは初学の頃であったり、転機にさしかかって自己をもう一度見つめたいと考えた時などに描かれ、数はごく限られたものです。ですから、『自画像』をコレクションすることは難しいものです。よく知られたものでは東京藝術大学が初期から卒業生に対し、作品に自画像を添えて提出することを求め、現在膨大な数となっていますが、功成り名を遂げた作家の自画像コレクションとしては、洋画商の先駆・日動画廊が収集し、笠間日動美術館に収まっているものが群を抜いています。

今回、日本近代洋画の先駆者高橋由一から現在活躍中の作家までを揃えた笠間日動美術館のコレクションの中から、佐伯祐三など大正以後の自画像を選定し、当館所蔵作品等と併せて六十作家の自画像をご覧いただきます。梅原龍三郎や安井曾太郎、藤田嗣治等の巨匠から、萬鉄五郎、佐伯祐三等の鬼才、石川出身の宮本三郎、高光一也、鴨居玲、そして奥谷博、松樹路人、稲垣考二、木下晋など現代の画壇を牽引する画家達の自画像です。

さて、こうした自己の心情告白ともいえる自画像と作品を組合せ、より深い鑑賞に繋げたいというのが本展の主旨ですが、さらに一部の作家に関しては長年愛用してきたパレットを展示いたします。自画像と作品、パレットと作品という構成で、六十五作家百二十二点をご覧いただきます。

パレットについて述べますと、これも笠間日動美術館が誇るコレクションで、現在三百五十点以上という世界に類のないものです。発端は日動画廊創始者長谷川仁氏が、昭和四十二年に日本で開

宮本三郎「画室の自画像」

安井曾太郎「自画像」

# セルフ・ポートレイト展

主　催／石川県立美術館　　協　力／財団法人日動美術財団

かれたユトリロ回顧展に際し、ユトリロが馴染みの画商へ愛用のパレットに絵を描いて贈ったことを知り、同年の画廊創業四十周年と、妻と共に迎えた古希を記念して、親交の深い画家達から願い出て愛用のパレットを譲り受けたことに始まります。パレットには画家が思い思いに絵を描き添えていて、作品としても充分楽しめますし、なにより、この小さな板の上で画家が色を調合し、数々の作品を生み出したのだと思うと感慨深く、見飽きることがありません。それぞれが大変個性的で、使用した絵具や状態からは、画家の性格もうかがえ、これもまたセルフ・ポートレイトといえるのではないでしょうか。

自画像と作品、パレットと作品、あるいは自画像とパレットなど、さまざまな観点からご覧いただき、鑑賞を深めていただければと願うものです。

**展示構成**

（1）自画像―六十作家、六十点
（2）パレット―二十五作家、二十五点
（3）作品（自画像及びパレット展示作家の作品）―三十七点

**主な出品作品**

| | | |
|---|---|---|
| 岩田榮吉 | 「自画像」 | 一九五二年 |
| 梅原龍三郎 | 「自画像」 | 一九八五年 |
| 鴨居　玲 | 「勲章」 | 一九三一年 |
| 北川民次 | 「画家の肖像」 | 一九七四年 |
| 木下　晋 | 「自画像Ｂ」 | 一九一七年 |
| 佐伯祐三 | 「自画像」 | 一九四三年 |
| 高光一也 | 「山の自画像」 | 一九七〇年 |
| 林　武 | 「自画像」 | 一九二三年 |
| 藤田嗣治 | 「室内（妻と私）」 | 一九六八年 |
| 宮本三郎 | 「画室の自画像」 | 一九五九年 |
| 武者小路実篤 | 「自画像」 | 一九一三年 |
| 安井曾太郎 | 「自画像」 | |
| 萬　鉄五郎 | 「自画像」 | |

岩田榮吉「自画像」

**■関連行事**

記念講演会
日　時　四月二十四日（日）午後一時三〇分～
会　場　美術館ホール（聴講無料）
講　師　長谷川徳七氏・長谷川智恵子氏　日動画廊社長・副社長
演　題　「素顔の作家たち」

鉛筆で描く―木下晋さんによるセルフ・ポートレイト講座
日　時　五月八日（日）午前十時～午後四時
講　師　木下 晋氏（画家・金沢美術工芸大学教授）
会　場　美術館講義室
対　象　中学生以上二〇名　参加費…四〇〇円
申込方法　四月二十七日（水）まで（当日必着）に、往復はがき（一人一枚）に住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号、返信用宛名を記入し、当館セルフ・ポートレイト係へ。（応募多数の場合は抽選）

学芸員によるギャラリートーク
毎週　日曜日午前十一時～

**■観覧料**

| | |
|---|---|
| 一　般 | 八〇〇円（六〇〇円） |
| 大　学　生 | 六〇〇円（四〇〇円） |
| 小・中・高生 | 二〇〇円（一〇〇円） |

（　）内は二〇名以上の団体料金

**■開館時間**

午前九時三〇分～午後六時まで
（毎週土曜日は午後七時）
（入館は閉館の三〇分前まで）

前田育徳会尊経閣文庫分館

# 百万石大名の装い
## ―甲冑・陣羽織―

**5月11日(水)～7月12日(火)** 6月13日(月)～15日(水)は休館

「金沢百万石まつり」は、加賀藩祖・前田利家が賤ヶ岳の戦いの後、四月二十八日（新暦六月十四日）金沢に入城し、金沢の礎を築いた偉業を偲んで毎年開催されていますが、その時期に合わせて、前田育徳会が所蔵する藩主代々の甲冑や陣羽織を公開する恒例の展覧会です。

今回注目いただきたい作品は、二代藩主前田利長所用の「銀鯰尾形兜」です。長烏帽子・熨斗烏帽子に似ており、戦国時代に流行した変わり兜の形式の一つです。鯰は大地を揺るがすと言い伝えられており、そうした不気味な力で敵に勝つという縁起をかついで用いられたもので、同種の兜は初代利家所用といわれるものも伝えられています。この長大な兜を被り馬に乗る武将の勇壮な姿は見事なものと言えましょう。前田家が加賀・能登・越中の三国を領有する端緒となった末森の戦いの絵巻に、前田利家とともに鯰尾形兜の利長の雄姿が描かれています。なお、この作品は当館では初公開の作品です。また、同じく末森の戦いで利家が旗印としたといわれる「鐘馗幟」は現在重要文化財になっていますが、明治時代の岸浪柳渓による模写を合わせて展示します。鐘馗は疫鬼を退け、魔除けとなる神として、武将に好まれたのです。このように二代利長から十代重教に関連する甲冑や陣羽織を中心に二十六点を展示します。

銀鯰尾形兜　前田利長所用

第２展示室

# 長谷川等伯とその周辺

**5月11日(水)～6月12日(日)会期中無休**

昨年は、長谷川等伯の没後四〇〇年にあたったことから、東京と京都で大規模な回顧展が開催され、等伯を再認識する機運が全国的に高まりました。石川県立美術館は長谷川等伯の作品を所蔵していませんが、等伯と号する前の信春時代の重要な作品である、石川県指定文化財「十六羅漢図」（霊泉寺蔵）と「日蓮聖人像」（実相寺蔵）が寄託されています。この二点は、先の回顧展をはじめ全国から借用の要望が多く寄せられることから、文化財保存の観点からも、全幅そろって石川県立美術館で同時に公開する機会が近年ありませんでした。

そこで今回の特集では、「十六羅漢図」全八幅と、等伯が二十七歳の時に描いたことが確実視されている「日蓮聖人像」をあわせて展示し、等伯の画業展開の一端を紹介したいと思います。興味深いのは「十六羅漢図」の制作時期です。「日蓮聖人像」と比較すると、「十六羅漢図」には人物描写を数多くこなした習熟のあとがうかがえると言うことができるかも知れません。また「十六羅漢図」に描かれた岩の表現には、等伯と号するようになって制作された作品と共通する手法が認められます。したがって、信春から等伯への移行期の作品と位置付けることもできるでしょう。

石川県指定文化財「十六羅漢図」
長谷川信春（等伯）霊泉寺蔵

## 第4展示室

# 顔 ～様々な表情～

**4月24日（日）～6月12日（日）会期中無休**

「彫刻」と聞いて、偉人や著名人の「胸像」や、人の顔・頭部を指す「首」をイメージした方も多く居られるものと思われます。人の顔をモチーフとして作られる立体作品は、彫刻・工芸を含め、洋の東西を問わずたいへん古くからみえるものとなっています。彫刻を習い始めるに当たり先ずはじめに作るのがこの「首」であるように、人体彫刻における最も基本的な単位であると同時に、生涯「首」制作一筋に打ち込む作家が居るように、たいへん奥深く魅力に溢れるテーマ・モチーフでもあり、彫刻において一つのジャンルを形成しています。このように人の顔を中心に、頭部～頸部にかけての「首」は、人体の中で最もまとまった彫刻的な量塊の美を示している部位であり、また同時に像主その人を代表しているのみならず、その人物の性格や心情、さらには人生をも代弁する「顔」を含むもので、人間表現の対象としても最も端的で魅力溢れる対象としてあるものです。

本展は、館蔵の吉田三郎作品などを中心として、顔を中心とする多彩な表情を持つ首作品の諸相を眺め、像主の個性溢れる人物の表現や、モデルの人となりや人間性と、素材との融合により醸成される首作品独自の存在感をお楽しみいただくと共に、彫刻家の深い人間観察や人物表現の眼差しをも辿るものです。

吉田三郎「北村西望像」

## 前田育徳会尊經閣文庫分館

# 花鳥の美 ―絵画と調度―

**4月24日（日）～5月8日（日）会期中無休**

前田育徳会尊經閣文庫分館では引き続き「花鳥の美」を開催中です。自然とともに暮らし、自然との深い関わりの中で文化を育んできた日本人には、自然に心情を重ねて表現するという伝統があります。美術作品にもその傾向が見られ、花鳥風月を表現する作品が好まれて制作されてきました。

「紫檀鷹蒔絵刀掛」は、紫檀の素地に勇壮な鷹を蒔絵で表しています。刀掛は武士の魂ともいえる刀を掛ける道具ですが、ここに表される鷹はいかにも勇ましく、刀を納めるにふさわしい意匠となっています。

紫檀鷹蒔絵刀掛

## 五月前半の展覧会

今年の桜はわれわれ日本人にとっては例年にも増して、特別な思いで眺めることになりましたが、季節は春から晩春へ、そして初夏へと悠然と歩みを進めています。自然との共生が叫ばれて久しい今日ですが、今まさに人間の叡智を結集した新たな時代への速やかな対応が求められています。

絵画や工芸に描かれた東洋の自然観を、展示中の作品のなかに感じとっていただくことで、自然と日本人との深いつながりを再考いただければ幸いです。

色絵牡丹図平鉢　古九谷

## 第2展示室

# 花鳥の美 ―絵画と工芸―

**4月24日（日）～5月8日（日）　会期中無休**

# 平成22年度の新収蔵品

平成22年度は、４名の方より総計８点の作品をご寄附いただきました。ご寄附を賜りました各位に改めて感謝申し上げます。また、今後とも皆様のご協力をお願いいたします。この他22年度は５点の購入があり、３月末日現在の収蔵品総数は3,089点です。

| No. | 分類 | 作品名 | 作者名 | 区分 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 陶磁 | 耀彩十二稜壺・恒河 | 三代德田八十吉 | 四代德田八十吉氏寄附 |
| 2 | 陶磁 | 耀三彩壺 | 三代德田八十吉 | 四代德田八十吉氏寄附 |
| 3 | 陶磁 | 耀彩瑠璃光壺 | 三代德田八十吉 | 四代德田八十吉氏寄附 |
| 4 | 陶磁 | 青釉華線文花器 | 宮西篤士 | 購入 |
| 5 | 陶磁 | 鵠（とき）の風景長角壺 | 武腰　潤 | 購入 |
| 6 | 陶磁 | 野葡萄文面取壺 | 山田義明 | 購入 |
| 7 | 染織 | 友禅訪問着「幻影・二」 | 前田　朋美 | 購入 |
| 8 | 染織 | 友禅訪問着「椿」 | 窪田　祐兆 | 購入 |
| 9 | 油彩画 | ガキ大将 | 吉川花憂 | 吉川花憂氏寄附 |
| 10 | 油彩画 | アンニウイの午後 | 吉川花憂 | 吉川花憂氏寄附 |
| 11 | 油彩画 | ピエロの夢物語り | 吉川花憂 | 吉川花憂氏寄附 |
| 12 | 彫刻 | 月の雫 Ⅲ | 石田瑞夫 | 石田瑞夫氏寄附 |
| 13 | 彫刻 | 女と男の不思議な縁 | 堀　義雄 | 堀　義雄氏寄附 |

耀彩十二稜壺・恒河　三代德田八十吉

耀三彩壺　三代德田八十吉

耀彩瑠璃光壺　三代德田八十吉

青釉華線文花器　宮西篤士

鵠（とき）の風景長角壺　武腰　潤

野葡萄文面取壺　山田義明

友禅訪問着「幻影・二」前田朋美

友禅訪問着「椿」窪田祐兆

アンニウイの午後　吉川花憂

ピエロの夢物語り　吉川花憂

月の雫 Ⅲ　石田瑞夫

女と男の不思議な縁　堀　義雄

# 今年度の土曜講座

当館学芸員が、それぞれテーマを設けて行う土曜講座。昨年度は一年を通して、大きく「石川の美術史」を共通した主題として、各学芸員が専門とするジャンルの郷土の美術についての内容で開講しました。

本年度も五月十四日を皮切りに計二十五回の講座を予定しています。そのうち、九月から十二月までの九回は「私が選ぶこの作家、この作品」を共通した主題として、各学芸員がそれぞれの専門のジャンルから選んだ作家の作家論、作品論を展開します。（内容については九月号に掲載する予定です。）

**■土曜講座日程（予定）五月～八月**

| 実施日 | テーマ | 担当者 |
|---|---|---|
| 五月十四日 | 長谷川等伯の画業 | 村瀬 担当課長 |
| 五月二十一日 | セルフ・ポートレイトの画家達 | 二木 担当課長 |
| 五月二十八日 | 銅像について（特集「顔」にちなんで） | 北澤 学芸専門員 |
| 六月二十五日 | 高橋介州と加賀象嵌 | 南 担当課長 |
| 七月二日 | 仏教の絵画 | 谷口 普及課長 |
| 七月十六日 | 東京美術学校と石川（一） | 西田 担当課長 |
| 七月二十三日 | 工芸の中の人形 | 寺川 学芸主査 |
| 八月二十七日 | 防虫について | 宮 学芸第一課長 |

# 五月の行事予定

**※土曜講座は右の記事を参照下さい。**

| | |
|---|---|
| **■ビデオ上映会** | **午後一時三〇分～ 美術館ホール 入場無料** |
| 十五日（日） | 「レンブラント ～光と影の自画像～」（三〇分）<br>「魂の自画像 ゴッホ／シーレ」（三〇分） |
| **■キッズ☆プログラム** | **午後一時三〇分～ 美術館講義室 参加無料** |
| 二十二日（日） | セルフ・ポートレイト展鑑賞講座 |
| **■セルフ・ポートレイト展関連行事** | |
| 八日（日） | 鉛筆で描く（詳細は三ページをご覧下さい。） |

# 五月十八日は国際博物館の日

国際博物館の日は、博物館が社会に果たす役割について広く市民にアピールするため、国際博物館会議（略称ＩＣＯＭ：イコム）によって提唱され、一九七七年に設けられました。世界各地で記念行事が展開されており、わが国では二〇〇二年に初めて参加し、今年で十回目を迎えます。毎年開催にあたって世界共通のテーマが定められます。本年は「博物館と記憶（Museums and Memory）」となっています。

石川県ではまだまだ馴染みが薄いようですが、当館では「国際博物館の日」を広く知っていただくために五月十八日を全館団体割引とすることにしました。初めての試みですがこれを機会に美術館・博物館の役割を広く知っていただければと思います。

# 次回の展覧会

| 展示室 | 展覧会名 |
|---|---|
| 第2展示室 | 特別陳列 仏教絵画 |
| 第3展示室 | 特集展示 生誕一〇〇年 森本仁平展 |
| 第5展示室 | 特集展示 工芸に見る鳥の意匠 |
| 会期 | 六月十六日（木）～七月十二日（火） |

# 「拾牛図」じゅうぎゅうず　1918年（大正7年）　縦171cm×横375cm（片隻の大きさ）

所蔵品紹介215

## 橋本 関雪　はしもとかんせつ　1883年（明治16年）～1945年（昭和20年）

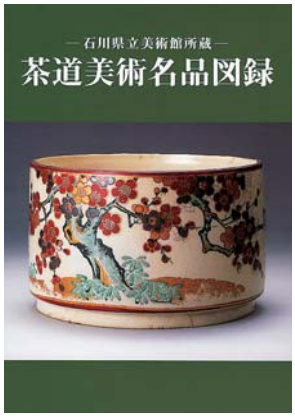
拾牛図は十牛図とも書き、禅の悟りに至る修業を、牧童が牛を探し捕らえて帰るまでの過程に例えたもので、一．尋牛、二．見跡、三．見牛、四．得牛、五．牧牛、六．騎牛帰家、七．忘牛存人、八．人牛俱忘、九．返本還源（へんぽんげんげん）、十．入鄽垂手（にってんすいしゅ）の十種の絵から構成されます。中国宋代の禅僧廓庵によるものがよく知られており、どちらかというと図式的なものが多いのが特徴です。しかし本作では、主人公となるはずの牧童が後向きに描かれるなど、場面説明への拘りを捨てた構図がとられています。それが写実的な描写と併わせて、ドラマの一場面を見るように説得力のある臨場感を生み出しています。幼少より四条派系の画家について熟練した描写力と、絹の裏から金箔を施す「裏金」の装飾的技法が相俟って、十牛という禅の思想が関雪独自の世界に創り上げられています。

橋本関雪は明治十六年神戸市に生まれ、はじめ片岡公曠、のち竹内栖鳳に師事しました。奔放で率直な性格は師である栖鳳とも軋轢を生み、四十年には師のもとを離れます。明治四十一年第二回文展に初入選以降文展を中心に活躍。四条派の写実を基礎に、中国や日本の古画を研究し独自の画風を確立しました。昭和九年帝室技芸員、十年帝国美術院会員。

## ミュージアムショップ通信

好評につき暫く品切れが続いていました「茶道美術名品図録」が第二版として、「九谷名品図録」が改訂第三版としてショップに並ぶことになりました。当館の茶道具、古九谷は言うまでもなく他を圧倒する優品揃いです。写真、解説ともに充実した各書は、愛好家にとっても恰好のテキストとしてご愛用頂けます。

各二〇〇〇円




## ご利用案内

**コレクション展観覧料**

一　般　350円（280円）
大学生　280円（220円）
高校生以下　無料
※（　）内は団体料金

**5月の開館時間**

午前9：30～午後6：00
（毎週土曜日は午後7：00まで開館）

**カフェ営業時間**

午前10：00～午後7：00

5月9・10日は第1～2展示室、尊經閣文庫分館を展示替えのため閉室します


やさしさ品質
お土産・和洋菓子・生鮮・惣菜・レストラン
地階 エムザ食品館
"もっとお客様へ、もっと地域に"
MEITETSU MIZA めいてつ・エムザ
金沢・むさしが辻 TEL代表(076)260-1111
http://www.meitetsumza.com/
広告



石川県立美術館だより
第331号〈毎月発行〉
2011年5月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/



R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています